

# 土佐のお街、日曜市へ。



野菜や果物、干物、土佐打刃物、田舎寿司など高知の名物がたち並び、300年前から高知の台所を支えてきた「日曜市」。高知市内の車道が毎週日曜日に朝早くから市場へと変貌し、今や多くの観光客が訪れる名所ともなっております。

とおそろのおそろ高知市役所にお願ひしてみると、ちょうど空いているところがありトントン拍子で話が進みまして、7月からの3ヶ月間、馬路村農協として出店することとなりました。朝早くから訪れる県内外のお客さんの多さに驚きながらも、「馬路村に行ったことがあるんです」「いつもポン酢を使っています」など本当にたくさんのお話もいただき触れ合えた3ヶ月でした。外へ出て新しいチャレンジをしてみると、村の中だけでは分からない事が山のようにあることもしみじみと感じた、帰りのトラックの運転席でした。

馬路村は同じ高知県でも東の山の奥。日曜市は遠い存在でありましたが、出てみたい、

# たじたじ有機ゆずの話。



馬路村が20年以上取り組んでいる有機農業の取組が改めて注目されることも多くなってきました。今回のパンフレットでも「有機ゆずとは」を繰り返し考え、表現しておりますが、有機農業の気運が全国的に高まれば高まるほどに、その理解は広がっていくと思いますが、有機という言葉がトレンドのように扱われ、その本質が薄れていってしまわないかという危惧もあります。では、馬路村の有機の本質とは、存在とは。収穫の季節を迎え、黄色く色づいたゆず玉に問いかける日々が続きます。

# うまじもく新聞



令和5年秋冬発行  
馬路村農協

丸太切りや杉の木のほりなど、山の技術を競い合う「山師達人選手権」が先日馬路村にて開催されました。

コロナ禍で開催を見送っていたイベントも一斉に再開し始め、忙しい秋を迎えております。

今年の10月29日(日)には「ゆずはじまる祭」も4年ぶりの開催を致します。ぜひゆず香る馬路村に。



馬路村への道  
高知市から室戸方面に約51km 国道55号線と太平洋沿いに進むと安田町へ入る。そして左に大まい川が見え左に曲がり、安田川沿いをくわくわく上れる。県道12号線を通る事20km 約30分。ゆずと馬路村に着きます。

ブログ  
日々馬路村  
ホームページ [www.yuzu.or.jp](http://www.yuzu.or.jp)

馬路温泉  
ツリッソのお湯です。  
ゆづりゆずの湯にまよせんが。  
宿泊やお問い合わせはこちら  
0120-44-2026

編集後記  
運動会に山師選手権など毎週末、イベントづくしの日々が戻り、筋肉痛の毎月曜日を迎えております。年々後退する体力に嘆いておりますが、4年ぶりだと4倍の嗅ぎが襲いかかり、不摂生を改める機会まで増えております。しかしながら、イベントづくしのこの村の喜ばしい活気は、どこか心地よいです。



村の青空にスタートの合図が響きます。馬路村では保育園、小学校、中学校の合同運動会が開かれました。もうこんなに大きくなったかえ、と子どもたちの成長を村民みんなで見守っています。

# とよみ



# ゆずとり

朝から晩までゆずとりが続く日々が始まりました。10月下旬から12月初旬にかけて、約40日間が馬路村ではゆずの収穫の期間です。週末には、街に住んでいる息子家族も帰ってきて、家族総出で畑に向かい、賑やかな声がかえってくるのも、村の秋の風物詩。忙しいながらも正月以外の集いの場になっております。



馬路村といえば「ゆず」と言われるようになってきましたが、そう言われはじめたのも30年ほど前からでしょうか。以前は林業の村として名をせ、衰退も経験したおんちゃんたちも、今やこのゆずの光景が当たり前になっている有難さを噛みしめるようにパッチンパッチンと一つずつゆずの玉を摘んでいきます。



# ほい、またい

秋の宴会の主役といえば、村のマツタケでしょうか。村の中でも限られた宴会の中でマツタケ様が登場しますが、おそらく都会ではウン万円ほどもあるような高級コースでしかお目見えしないようなサイズのもが「ほい、ほい、どんどん食え」と惜しげもなく網の上に置かれていきます。村では当たり前、のことに毎度驚かされる日々ですが、村の特権としてありがたく頂戴しております。おんちゃんに「今年はずっと来てますか？」と聞いても、なぜか口を濁す様を見ると、村の中でも少しだけ、貴重品なのでしょうか。また逢える宴会を楽しみに待つ日が続きます。村民がちよこつと食べる分しかとれませんので、お送りすることはできませんので、あしからず。



## 馬路村 魚梁瀬。

# 変な時代。



20年以上になリますでしようか。長年、ギフト包装紙に使用していたデザインをこの度見直すこととなりました。変わらない良さというものもありますが、馬路村も時代とともに、伝えるものも変わってきており、来年夏に包装紙を変更することになりました。ぜひ、お楽しみに。



「稲が終わって、ゆずが終わって、ようやく一息つけるねえ」一年の中で最も忙しいゆずの季節が始まります。

毎日のゆずとりの終わりが、ようやく見え始める自分たちの使う用の柚子酢を搾り、果汁は一升瓶に、搾った皮は自家製の佃煮やゆずジャムなどに。夕方に家の庭先で各家が持つ木製搾り器で搾る光景を見るとゆずの季節もそろそろ終わりを告げている事を感じます。家族総出のゆずとりが家族の当たり前の形。

